



一般財団法人 東海技術センター

Sustainability Report 2024



TRY TO CHANGE
これからのために



名古屋本所 〒465-0021
名古屋市中東区猪子石2丁目710番地
TEL (052)771-5161 [代表]

ハイパーラボ 〒489-0977
愛知県瀬戸市坂上町420番地1
TEL (0561)85-0214 [建設環境・地盤建材事業部]
TEL (0561)85-0384 [品質評価事業部]

三河試験所 〒440-0081
愛知県豊橋市大村町字橋元68番地1
TEL (0532)57-7797

東京営業所 〒104-0033
東京都中央区新川11-3-21 BIZ SMART 茅場町
TEL (03)6868-8832

01 事業紹介

ご挨拶

一般財団法人東海技術センター(TTC)は、環境保全を主眼とした従来の調査・分析機関としての役割以外に、製造業をはじめとした様々な産業のサプライチェーンにおける原材料・工業製品の品質試験・分析にも力を入れ、顧客・市場のニーズを見据えた事業展開を行っています。

昨今、デフレマインドから完全には脱却しない中でのインフレが進行していることは、大きなリスク要因でもあります。また、世界の総人口が増加を続ける中、日本のデフレと低金利を支えたとの見方もある生産年齢人口が20年後には約20%減になることが予想されており、サステナビリティの観点においても大きな課題と考えられています。

このような社会的背景のもと、サステナブルな社会の実現に向け活動することを宣言し、5つのP、『People(人間)、Prosperity(豊かさ)、Planet(地球)、Peace(平和)、Partnership(パートナーシップ)』の視点で、それぞれの取り組みを報告します。



理事長
平井 修司

私たちは、環境の保全と産業の発展に寄与することで、広く社会に貢献することが使命と考えております。引き続き、ご支援を賜りますようお願いいたします。

●People(人間)、Peace(平和)

社会人研修、職制別研修、若手勉強会を組み合わせた人材育成をはじめ、小中学生の教育に寄与する活動を実施。また、各種社内規程を見直し、有給休暇取得や育児休暇取得の促進などの働き方改革を推進。

●Prosperity(豊かさ)、Planet(地球)

CO₂削減へ向け、省エネの取り組みとして社用車削減やハイブリッド化、照明のLED化、高負荷設備のタイムシェア、事務所の集約などを積極的に実施。また、地域社会との調和を目指し、周辺清掃の継続、災害時の訓練・備蓄品の充実、藤棚見学会での交流なども行います。

●Partnership(パートナーシップ)

EPOC(環境パートナーシップ・CLUB)への参画、産官学による共同研究など外部連携を行い、社会課題の解決、新たな価値創造に寄与。

また現在、2026年度完成を目指し新社屋建設計画を進めています。

①新規性・拡張性 ②省エネ・SDGs ③働き方改革・安全安心の3つのコンセプトを掲げ、ひいては、サステナブルな社会の実現に貢献すべく、これから先50年に向けた重要なプロジェクトと位置付けています。

経営理念

営業戦略(営業強化)と低コスト戦略(業務の効率化)を双発エンジンとして、顧客から信頼され、地域社会に貢献するひとり一人が働きがいを実感し、働く喜びを感じるTTCへ

経営方針

「行動だ！一歩前へ！」

新しい時流を的確に捉え、創意・工夫で早めに手を打つスピード感覚を習得

「精度管理はTTCの命」

信頼される良質なデータ提供による社会的使命の遂行

「組織力強化で仕事を実感」

課題解決型人材の育成強化とグループ内、課間、部門の連携強化で組織力を強化

品質基本方針

顧客に満足され、社会的に信頼されるデータを提供する。

環境理念

一般財団法人として、社会的に信頼される測定分析データを提供し、地域の環境保全への取組みを支援するとともに、自らも環境保全に配慮して行動する。

目次

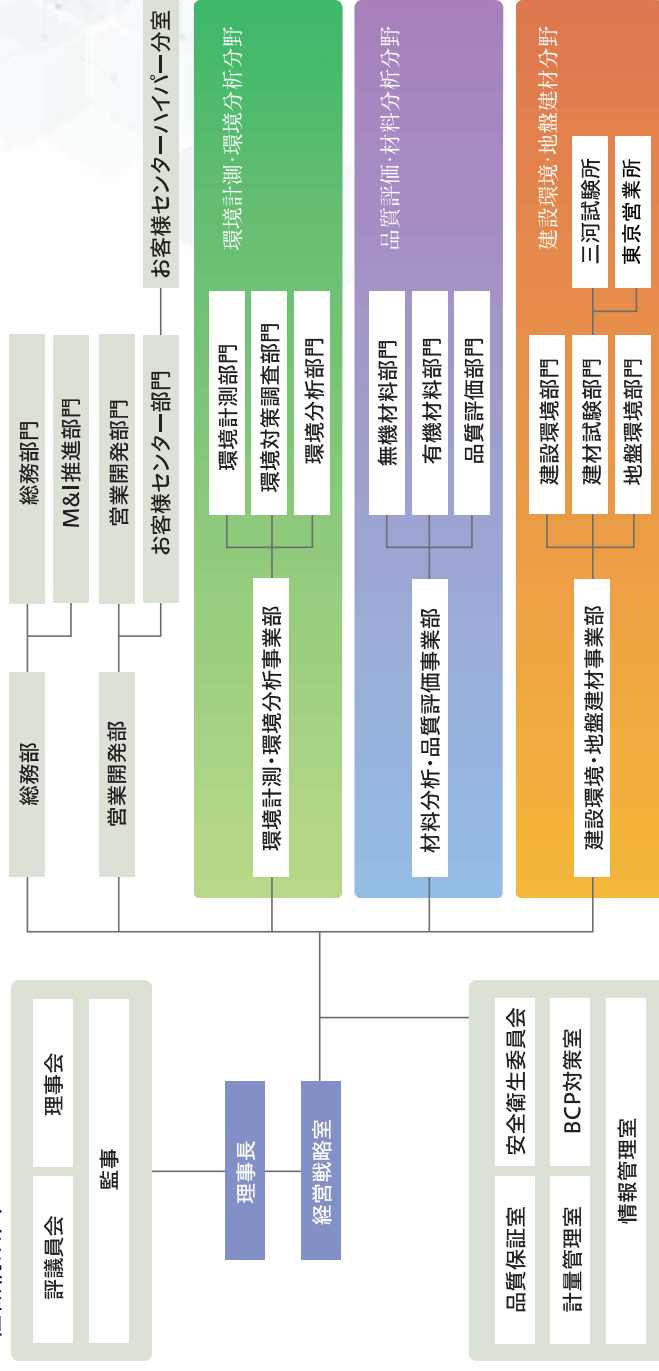
01. 事業紹介	P.02
02. 事業活動	P.04
03. People(人間)	P.06
04. Prosperity(豊かさ)	P.08
05. Planet(地球)	P.09
06. Peace(平和)	P.11
07. Partnership(パートナーシップ)	P.12
08. ピックアップ!	P.16
09. トライアル	P.17
10. 「新社屋建設」について	P.18



新社屋完成イメージ

事業活動

■ 組織構成図



環境計測・環境分析分野

環境計測では、大気汚染防止法、悪臭防止法、労働安全衛生法など関係法令にもとづき、環境大気、大気メネテ、ごみ質、臭気、作業環境などの調査・測定に対応。環境分析では、生活環境分析、細菌試験、水道水質検査、石棉調査・分析、PCBを含む有機化学物質分析、昨今規制が進むPFOS・PFOA、有機フッ素化合物(PFAS)分析。

材料分析・品質評価事業部

品質評価では、自動車内装材や電子機器類の揮発性有機化合物(VOC)分析、におい試験・官能試験を実施。材料分析では、製品や材料の無機成分・重金属分析、放射線・放射能分析、表面のごく微量な成分・構造分析、昨今では熱分析、元素分析、粒度試験などの物理試験にも対応。

建設環境・地盤建材分野

建設環境では、建設材料(コンクリート、骨材・スラグなど)の強度・中性化および塩分量試験、ひび割れ充填剤の評価試験、建設資材の有効活用試験、環境アセスメント・自然環境調査、騒音・振動調査、排水や環境水の水质・生物調査、土壌汚染調査を実施。昨今では、構造物調査時の3次元モデル(BIM/CIM)の導入で外部連携を推進。



21324.01

22194.03

環境測定分析

快適な生活環境を守るために

美しい自然環境、快適な生活環境を
次世代へ継承するために。

- 水質調査・分析
- 放射能・放射線量
- 飲料水等の水質検査
- 環境アセス、自然環境調査
- 産業廃棄物の分析
- 騒音・振動
- 大気・臭気・作業環境
- 土壌汚染調査
- 有機フッ素化合物(PFAS)の分析



製品等の品質

安心・安全な製品を使うために

製品の安心・安全、その第一歩となるのが
製品に関する正確なデータの把握です。

- 製品中の有害物質
- 異物・未知物質の同定
- 車室材料の分析
- 臭気原因物質の究明
- 製品中の成分、重金属分析
- 製品、原材料の品質試験
- EPMA等による微小表面の分析
- 製品・食品等に係るにおい試験

第三者機関としての信頼性

構造物や建築物に使用される建設材料は
安全で安心できるものでなければなりません。

- コンクリート材料試験
- スラッグの品質試験
- 建屋解体時の調査・分析
- リサイクル材料の認定申請試験
- 地盤材料・路盤材料試験
- コンクリート構造物の劣化診断
- カーボンサイクル、オフセットコンクリート等の品質試験



地域貢献

近隣中学校の職業体験に協力

地域と共に未来を創る企業へ

TTCでは、中学生を対象とした職業体験の受け入れに協力しました。当日は「電子顕微鏡観察」「高速液体クロマトグラフ分析」「滴定分析」など様々な化学分析を体験してもらいました。普段見ることのない装置や慣れない作業に苦戦しながらも、最後は化学分析についてしっかり学んでもらいました。

次世代を担う若者たちに「働く」ことの意味や魅力を感じてもらい、未来への夢を育む一助になれたと思います。そして私たちは、参加した生徒さんに分析化学を将来の仕事にしたいと思ってもらえるよう精進していきます。

今後、地域社会への貢献を大切にし、地域に根ざした活動を通じて、地域の皆さまと共に成長し、豊かな社会の実現を目指しています。



働き方改革

各種制度面から見た職場環境整備

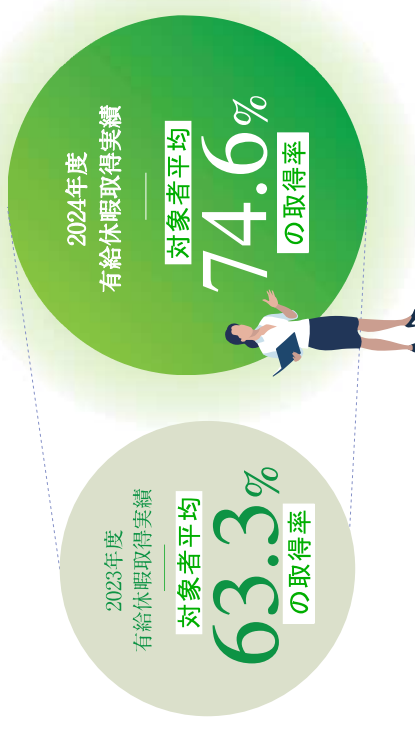
育児休暇(育休)の推進

男性育休の制度自体はあったものの浸透・利用率は低かったことから、昨年度より育休取得の推進に力を入れています。推進の効果もあり2023年度の取得率も66.6%と高まり、さらに2024年度は100%の取得となりました。

今までは取得の申請があると、対象のグループは体制の見直し、業務の割り振りなどの対応に追われていました。しかし育休取得の推進により「出産のお祝いと並行して、育休取得がある」という認識が社内にも浸透していき、大きな混乱に至りませんでした。結果、気持ちよく育休を取得できる環境になっていることは、TTCの新たな文化と言っても過言ではないと感じます。

有給休暇取得の推進

働き方改革によって、有給休暇取得率が大きく改善されてきました。2022年度59.5%、2023年度63.3%、2024年度72.4%、2025年度は80%を目標にしています。



VOICE



3人目が産まれたタイミングで2か月間の育休を取得しました。食事の準備、掃除や洗濯、上の子の保育園や習い事の送り迎えに加え、日中と夜中の赤ちゃんの世話を妻と分担してできたことは本当によかったと思います。

何より取得して良かったのが、産まれた直後から2か月間ずっと子どもと一緒にいられたことです。上の子2人は里帰り出産だったため、これほど一緒にいたのは、3人目にして初めてで、今まで以上の幸せを感じることができました。

人生においてとても貴重な機会なので、今後、後輩が取得する際には全力でサポートしたいと思っています。

04 Prosperity (豊かさ)

地域社会との共存

瀬戸市にある試験所「ハイパーラボ」では、2017年9月の開設以来、地元自治会の皆様や隣接の会社様と親交があり、植樹後5年目の藤の開花に合わせ、2024年度も藤棚見学会を開催し交流しました。

当日はたくさんの方に見学会にお越しいただき、「毎年楽しみになっています」「とても綺麗ですね」といった嬉しいお言葉もいただきました。

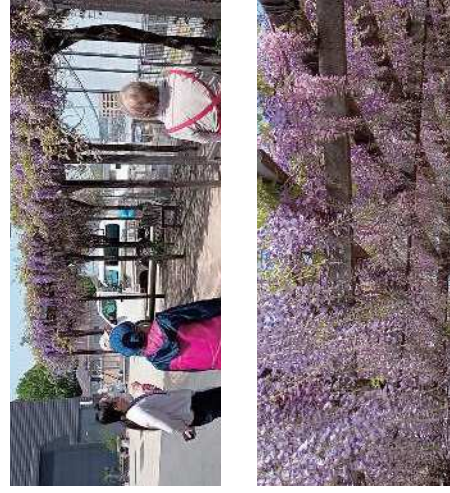
地域とのコミュニケーションの場であり、ハイパーラボでの試験業務を知っていただけの機会としても、今後も継続していきます。藤のやわらかな香りを紙面を通じてお届けできたらと思います。



周辺住民の方や近隣会社への案内



当社自慢の「昇り藤」



写真を撮ったり、香りを楽しんだり、約40名の方に見学頂きました

7 7. 持続可能なエネルギー
8 8. 働きがい、経済成長、雇用
9 9. 産業、革新、インフラ

10 10. 人や国の不平等の削減
11 11. 持続可能な都市とコミュニティ

自然と調和する経済・社会・技術の発展を確保し、すべての人が豊かで充実した生活を送れるようにする

環境負荷軽減

環境を守る測定分析機関として、なにより環境に負荷をかけない日常的な光熱費削減の取り組みを第一に考えています。そのため、2018年時点の光熱費によるCO2換算量を2027年には半減させる目標をたてています。

並行して、2027年後半に竣工予定の新分析棟では、従来の事務・試験棟のCO2排出量をさらに半減させるため、建屋構造の省エネ、省エネ設備機器の積極的導入、そしてオペレーターティングでの省エネによって実現を目指しています。

具体的な対策

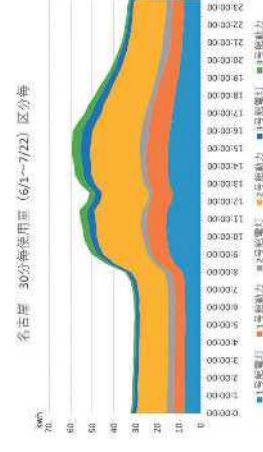
- **設備、システム等による対策**
 - ・デマンドコントロールでの電気使用量管理
 - ・中部電力節電プログラムへの参加
 - ・ハイブリッド車の導入
 - ・蛍光灯のLED化(2023年度末のLED交換率40%が、2024年度中は75%に)(ピーク時の電気使用量が最大3%カットを実現)
 - ・ピニールカーテン設置による空調の効率化
- **社内の取り組み、運用面での対策**
 - ・昼食時間をずらし、ピークの使用時間の分散
 - ・電力ピークアラームに合わせた設備機器・空調等のコントロール
 - ・入社時研修、若手勉強会での省エネ教育
 - ・電気炉・恒温室など高負荷設備のタイムシフト
 - ・室内温度管理の徹底(冷却ネックベルト等による熱中症対策)
 - ・空調の残熱利用(退社時20分前のOFF)



室内でも冷却ネックベルトで対策



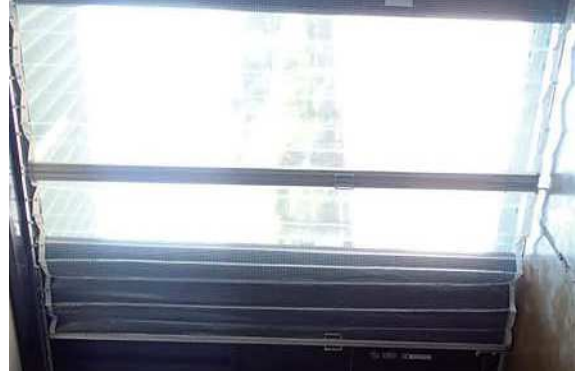
LED交換前



電気使用量のチェック時間でピーク時間を把握し対策



LED交換後



ピニールカーテン

05 Planet (地球)

12 12. 持続可能な消費と生産
13 13. 気候変動
14 14. 海洋資源
15 15. 陸の豊かさ

地球を破壊から守るために、責任ある消費と生産の仕組みをつくり、気候変動への対策などに取り組み

環境を守る測定分析機関として、なにより環境に負荷をかけない日常的な光熱費削減の取り組みを第一に考えています。そのため、2018年時点の光熱費によるCO2換算量を2027年には半減させる目標をたてています。

並行して、2027年後半に竣工予定の新分析棟では、従来の事務・試験棟のCO2排出量をさらに半減させるため、建屋構造の省エネ、省エネ設備機器の積極的導入、そしてオペレーターティングでの省エネによって実現を目指しています。

具体的な対策

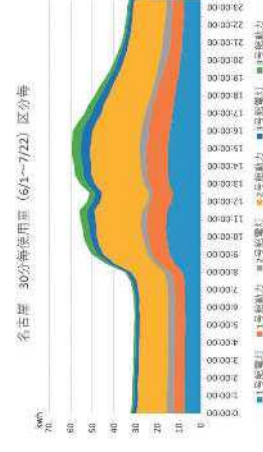
- **設備、システム等による対策**
 - ・デマンドコントロールでの電気使用量管理
 - ・中部電力節電プログラムへの参加
 - ・ハイブリッド車の導入
 - ・蛍光灯のLED化(2023年度末のLED交換率40%が、2024年度中は75%に)(ピーク時の電気使用量が最大3%カットを実現)
 - ・ピニールカーテン設置による空調の効率化
- **社内の取り組み、運用面での対策**
 - ・昼食時間をずらし、ピークの使用時間の分散
 - ・電力ピークアラームに合わせた設備機器・空調等のコントロール
 - ・入社時研修、若手勉強会での省エネ教育
 - ・電気炉・恒温室など高負荷設備のタイムシフト
 - ・室内温度管理の徹底(冷却ネックベルト等による熱中症対策)
 - ・空調の残熱利用(退社時20分前のOFF)



室内でも冷却ネックベルトで対策



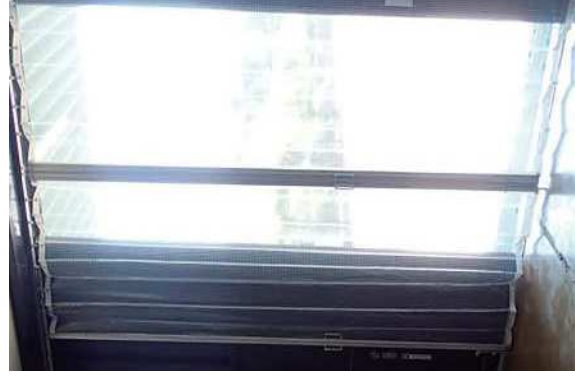
LED交換前



電気使用量のチェック時間でピーク時間を把握し対策



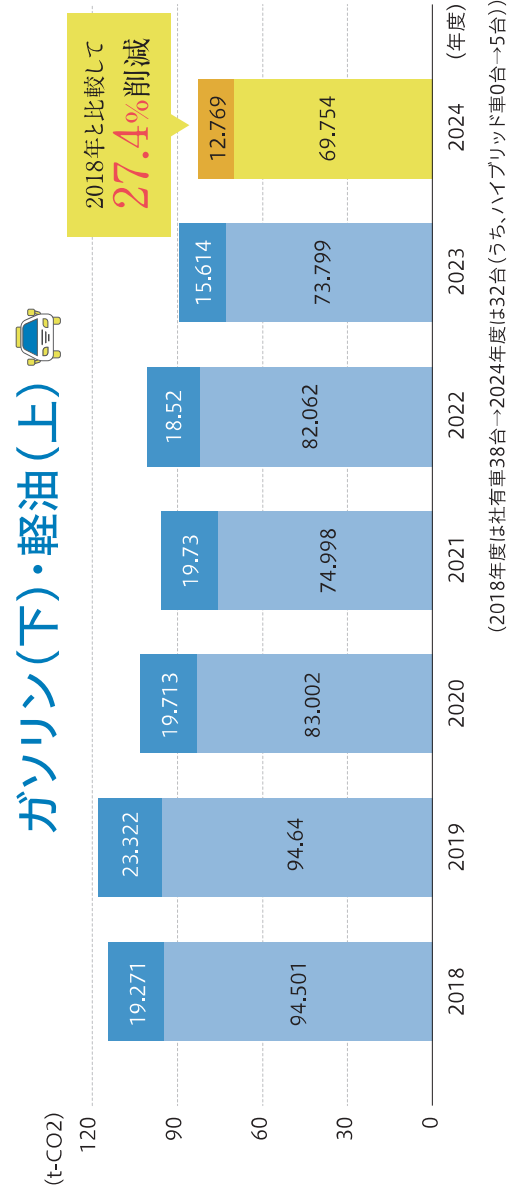
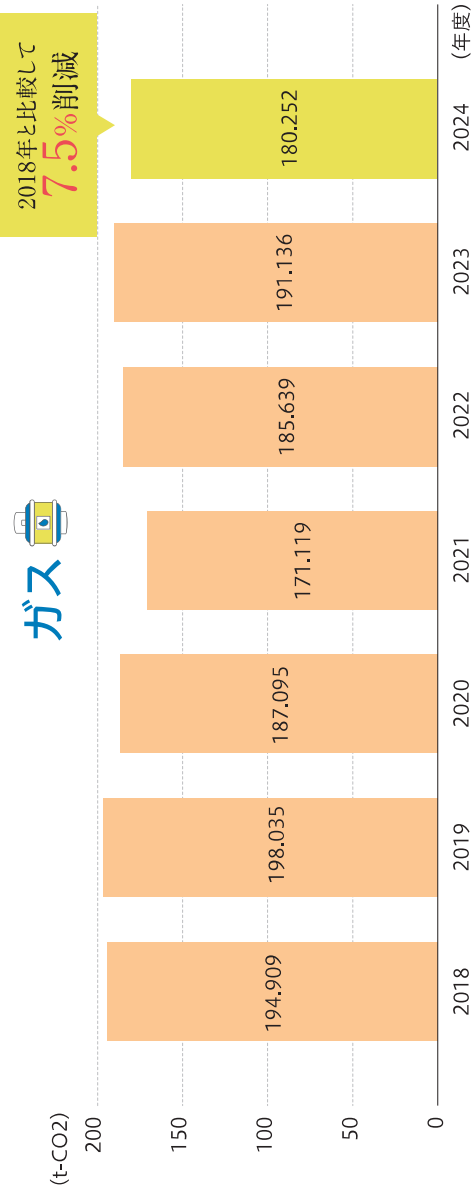
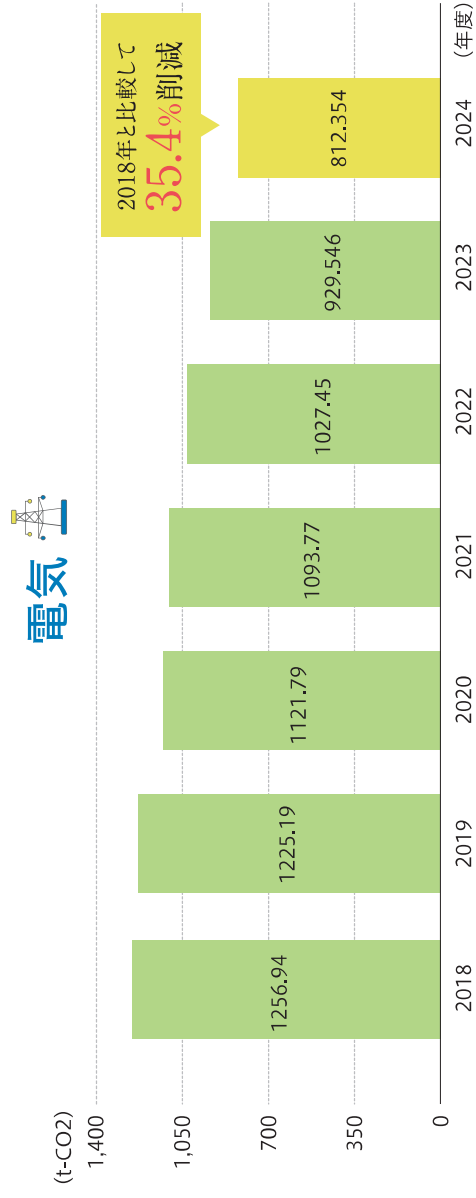
LED交換後



ピニールカーテン

CO₂排出削減

事業活動で使用量の多い「電気、都市ガス、ガソリン・軽油」について
CO₂排出量の推移は以下のグラフのとおり。



社会的な責任

法令を遵守するというコンプライアンスに加えて、環境や社会に対する影響を考えた事業活動を維持・継続し、社会的な責任を果たします。

環境理念

一般財団法人として、社会的に信頼される測定分析データを提供し、地域の環境保全への取組みを支援するとともに、自らも環境保全に配慮して行動する。

環境方針

1. 環境及び品質管理に係る測定分析等の事業活動を通じて、地域企業の環境保全活動を支援する。
2. 産業廃棄物の適正な管理及び減量化に努める。
3. 環境に配慮した購買品の調達を推進し、環境負荷の低減に寄与する。
4. 環境に関する法律、条令等を順守する。
5. 環境マネジメントシステムの継続的改善に努める。



争いのない平和を実現するために、戦争や紛争、暴力、迫害などの問題に関心を持ち、世界がずっと平和であり続けることを願う

災害に備えた防災訓練の実施、救命講習の受講推進

TTCは化学物質を多く使用保管していることもあり、火災のリスク、使用時のリスクに関しては常に高い意識を持っており、そこで南海トラフ巨大地震で震度6弱の地震が発生したことを想定し、避難及び要救助者の確認訓練を実施しました。訓練の前月に南海トラフ地震震臨時情報が発表されたこともあり、例年以上に緊迫感や当事者意識を強く持った有意義な訓練となりました。TTCではBCPを策定しており、災害時ににおける安全確保および災害後速やかな復旧・事業再開こそが社会的責任と考え、今後も防災への意識を高めていきます。また、名古屋市応急手当研修センターによる救命講習を定期的に通講しており、社内外問わず応急処置が必要な場面で率先して行動できるよう、心肺蘇生、AEDの取り扱い、異物除去法などを学んでいます。



消火訓練



名東消防署の指導講話



救命講習



心肺蘇生演習

産官学の連携による研究活動

TTCは、産官学との密接な連携を基盤に、多岐にわたる研究活動を展開しています。最先端の技術と知見を生かし、研究開発や新規事業開拓に積極的に取り組むことで、社会課題の解決と新たな価値創造を目指しています。

例えば、横浜市立大学、名古屋大学、農研機構との共同で取り組んだ「アンビエント分析の共同研究」について、2024年6月「質量分析学会」、2024年8月「におい・かおり環境学会」で研究発表。また、山口県農林総合技術センターとの「長州黒かしの香気成分解析」では、黒かしのブランドインゲ化のための比較研究として、プロイラーとの臭いの違いの違いを比較検査し強度比の差異を確認し報告しました。

その他の共同研究についても、ここで紹介します。

これらもお客様ニーズに的確に応え、先進的で独自性のある技術を身につけていくことで広く社会に貢献していきます。

17



世界のあらゆる国や機関、
そして人々が協力し合うこと。

② 愛知工業大学

「小型蒸留装置の応用検討とFIA技術の改良」

環境負荷を抑制した分析手法の開発を目的とし、2024年度は、クロステック(硝酸態窒素および亜硝酸態窒素)を実施(2回)。

③ いすゞ自動車、ジェイ・バス、

長谷工コーポレーション、静岡県立大学、大阪産業技術研究所、産総研等

「大型車両における車室内空気品質評価の検討」

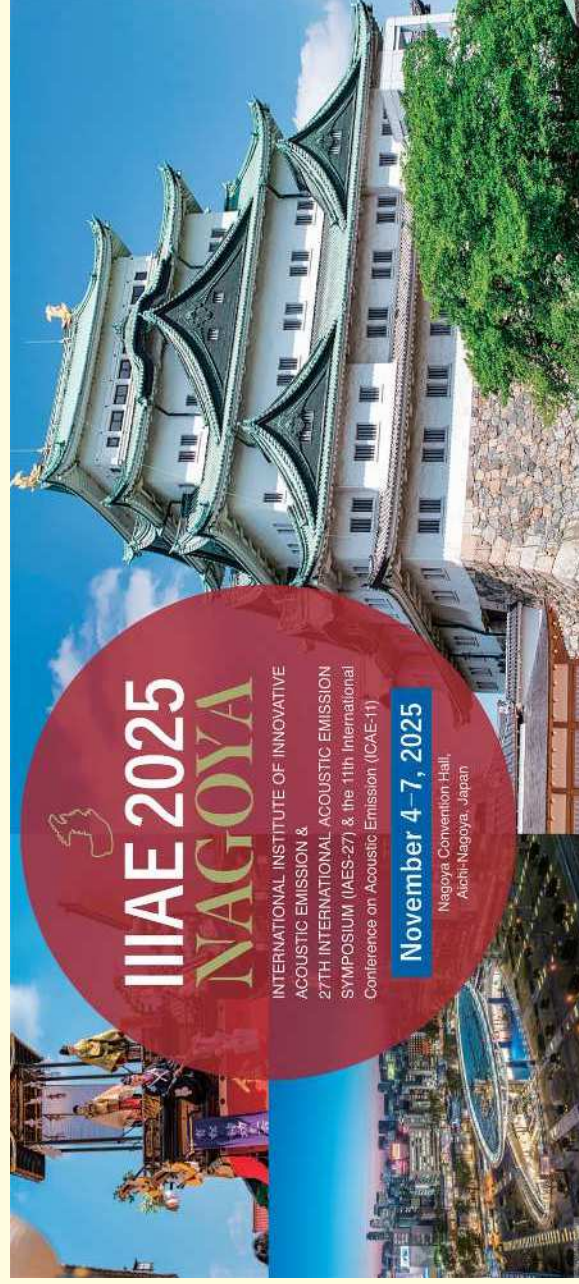
公共交通に係る車両内の快適性向上のための空気品質評価法の検討。2024年度は、実車測定を行うとともにセンサーの活用方法等を検討した。

主な共同研究

- **① 京都大学インフラ先端技術コンソーシアム**
「3D弾性波トモグラフィ法によるコンクリート内部欠損の特定」
- 2024年度の実績は、内閣府SIP「建設3DP品質評価手法検討」にて計測・解析を担当
- 国際会議での研究成果を発表(5月韓国、9月ドイツ、10月中国)
- 2025年11月に開催される「IIIAE世界会議 2025in名古屋」の実行委員会メンバーとして企画運営に参画



IIIAE2025大会
公式ホームページ



IIIAE2025世界会議 in名古屋HPより



車室内空気サンプリング
(バッグ)



車室内空気サンプリング
(キャニスター)



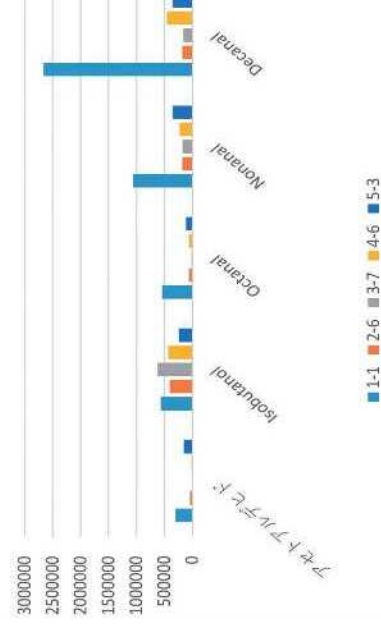
車室内微生物サンプリング
(バッグ)



バッグ→補集管
サンプリング



におい嗅ぎGC成分比較



07 Partnership (パートナーシップ)

UIII年次総会・海外研究施設ラボツアー

2024年11月20日(水)～22日(金)には、ベルギー王国のアントワープ市/ウォーレン市にて開催された「UIII(国際民間試験所連合)2024年次総会inアントワープ」に参加し、総会終了後にはEU内の試験研究施設を見学しました。環境対策とそのためへの測定分析は、国境を越えたグローバルな取り組みであり、このような海外連携の機会は増えてきています。

TTCからは、有機材料部門から1名(写真後列最左)参加しました。



世界のあらゆる国や機関、
そして人々が協力し合うこと。



ラボツアー後の懇親会(後列左から3人目: UIII会長 松村徹氏)



UIIIについてはこちら

協会活動

TTCは、設立当初から一般社団法人日本環境測定分析協会に積極的に参加しています。また、協会では毎年、全国大会を開催し、2024年度は中堅若手職員を対象とした「業界の将来と課題」についてのフリーディスカッションが行われました。

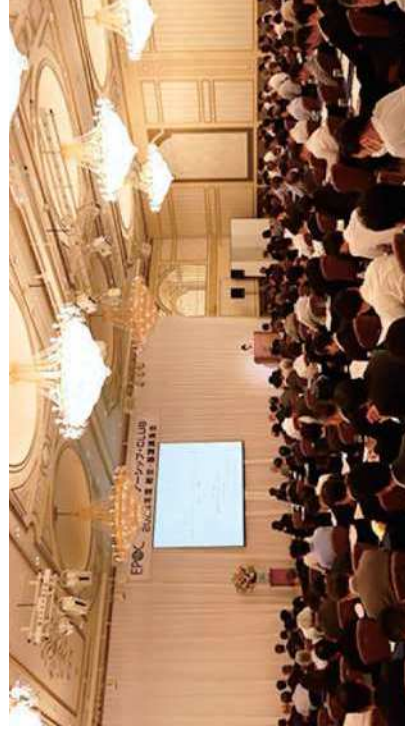


日環協・環境セミナー全国大会inかながわ

協会運営における各種委員会や精度管理、技術者養成などを目的とした共同実験にも積極的に参加。会員企業間の交流の場として、協会主催のフットサル大会にも参加し、練習や大会を通じて社内チームメンバー間での親睦にもつながりました。

EPOC (環境パートナーシップ・CLUB)への参画

循環型経済社会の構築を目指すEPOC(環境パートナーシップ・CLUB)では、環境経営分科会と自然共生分科会に参画し、講演会やセミナー、会員交流などを通じて、TTCの事業活動に活用されています。カーボンニュートラルのテーマで、CO₂算出の勉強会などにも参加しました。



化学物質のリスクアセスメント※

化学物質はTTCの事業において不可欠なものです。しかし適切に取り扱わなければ健康や安全に深刻な影響を与えるリスクがあることを安全衛生大会で説明し、全職員に周知しています。

「取り扱い濃度0.1%かつ使用頻度週1回以上」の物質を、「TTCが定めるリスクアセスメント対象物質」として定義し、厚生労働省が提供しているツール「クリエイトシンプル」を利用して評価し、適切な対策を講じています。

職員の安全安心はもちろん、リスクアセスメントは問い合わせや相談も多く、正確な情報提供と適切な対応が、社会的責任を果たすことにつながると考えています。

※リスクアセスメントの定義：化学物質などによる危険性・有害性を特定し、そのリスクの見積りと、低減措置の内容を検討する一連の流れ。



CREATE-SIMPLE ver 3.0

STEP 1: 対象物質の基本情報を入力します。

物質名	物質の化学名	物質のCAS No.	物質のEINECS No.	物質のEC No.	物質のGHS分類
物質名	物質の化学名	物質のCAS No.	物質のEINECS No.	物質のEC No.	物質のGHS分類

STEP 2: 取扱い情報に関する情報を入力してください。

製造・使用等の禁止、許可制等	製造・提供時	製造、使用時
製造・使用等の禁止、許可制等	製造・提供時	製造、使用時

STEP 3: 以下の作業内容に関する評価結果を表示します。

評価結果	評価結果	評価結果
評価結果	評価結果	評価結果

クリエイトシンプルを利用して評価を実施

自立体力測定(全国検定)



健康経営の取り組みとして、「自立体力測定」を実施しました。「自立体力測定」は、日常生活における体力や健康度を客観的に評価するもので、職員は測定結果を基に健康診断だけでは把握しきれない体力年齢の評価や暮らし方のアドバイスを受けることができます。職員が健康的な状態で長く働ける環境づくりを支援することで、職員一人一人のパフォーマンス向上による生産性の向上や職場全体の心理的な働きやすさや改善にも良い影響を与えることが期待されます。



職場環境整備

職場環境整備の一環として、定期的に作業着の見直しをしています。今回は、夏場の酷暑対策を中心に、作業着の軽量化、通気性、柔軟性をポイントに職員の意見を取り入れて導入しました。

VOICE

汗や水分の乾きが早くなりじとじと感が減ったことと、ズボンの伸縮性の良さのおかげで動きやすくなったと思います。それとデザインも大幅にリニューアルし、少しスタイリッシュな雰囲気になったのは嬉しいですね。



10 「新社屋建設」について

2026年度完成に向け、「新社屋建設プロジェクト」始動！

新社屋建設に
向けた
スローガン

社会から認められ、
お客様から求められる次の50年へ
～ひとり一人が働きがいを実感し働く喜びを感じる新社屋～

スローガン達成に
向けた
3つのコンセプト



② 省エネ・SDGs

省エネは新社屋の命題であり、2023年度の光熱水量をCO₂換算で50%削減する目標を設定（ZEB相当を目指す）



① 新規性・拡張性

お客様ニーズに応えるイノベーション開発、そして先行する技術を具体化する研究開発の将来スペースを設置



③ 働き方改革・安全安心

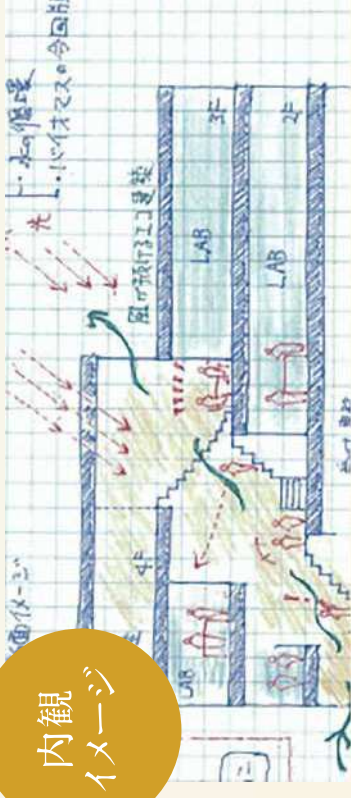
人とサンプルの動線向上で、能力を最大限に発揮できる職場環境を実現。特にコミュニケーションスペースの確保で職員間のプラスαの機能性を盛り込む



外観
イメージ



内観
イメージ



空調効率の向上、開放感によるリラクゼーション効果の向上

新社屋の建設は、単に老朽化した建屋の建て替えではなく、イノベーションを推進し、業務や職場の効率化・省エネ化による事業の発展に資する将来への大きな投資です。

環境調査分析、製品・建材等品質試験といった事業で、サステナブルな社会の実現に貢献するとともに、私たち自らがSDGsや働き方改革を意識し、体現していくための象徴となります。



このサステナビリティレポートも皆様の協力をいただき2回目の発行を迎えることができました。この号では、TTCの大きなプロジェクト「新社屋建設」についても紹介させていただきます。今までなかなかイメージできなかった新社屋についても、働きやすさだけでなく省エネ・SDGsも意識した建屋になるという実感が湧いてきました。次号も是非ご期待ください。

編集後記

M&I推進部
編集責任者 丹川幸久
武藤拓也 金子奈央 梅木優人
山本雄大 小関 在 磯野友里絵
編集：2025.5.28